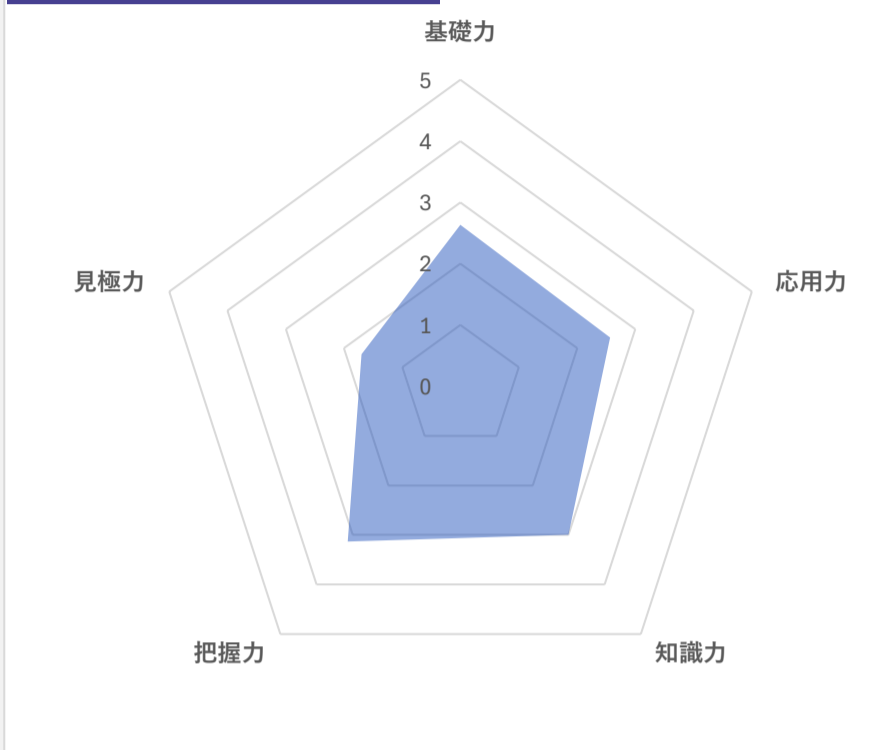


総合分析

試験区分	一般
------	----

制限時間	60分 (理科 2科120分)	大問数	全 5 問
------	-----------------	-----	-------

合格に要する能力 (5段階)



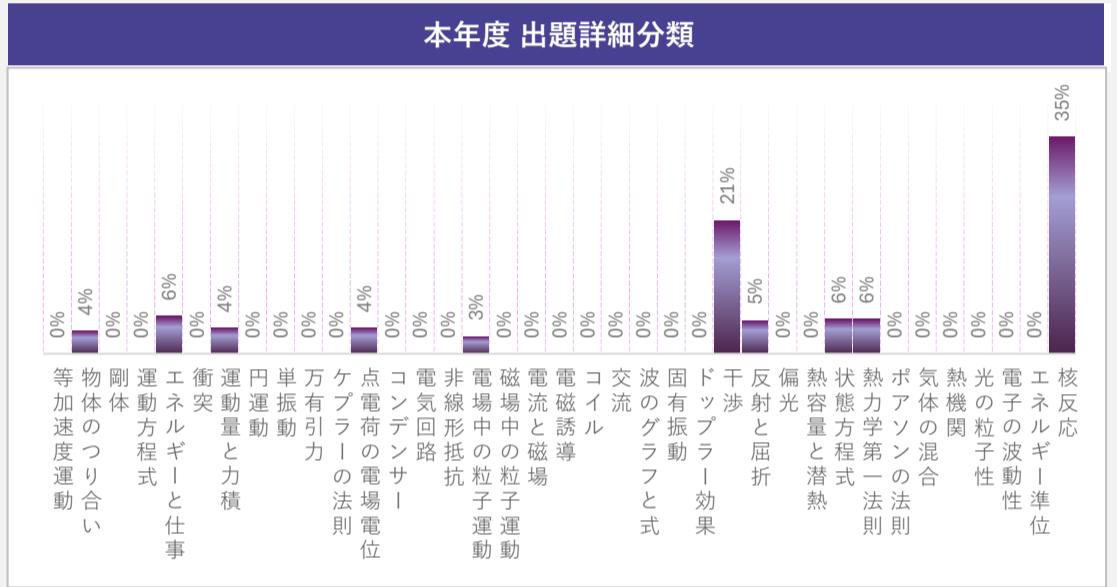
合格に要する能力 (5段階)		
基礎力	2.4	原理についての理解
応用力	2.4	演習経験による慣れ
知識力	2.8	用語を正確に覚えているか
把握力	2.9	臨機応変に状況を把握する力
見極力	1.5	解きやすい問題を選択する力

特記事項	特になし
------	------

出題分野	
力学	14%
電磁気学	7%
波動	27%
熱力学	11%
原子物理	41%

本年度出題テーマ一覧	
第1問	バリオンのクォーク構成
第2問	クーロンポテンシャル障壁
第3問	ばねつきピストンとシリンダーによる封入気体
第4問	薄膜干渉
第5問	235ウランと238ウランの存在比

本年度 解答形式
選択肢 100%



特殊問題の有無	近似計算なし	グラフあり
正誤問題なし	理由記述なし	数値計算あり

総合評価			
難度	2.4	最難を5とする問題自体の難度	やや易しい
分量	35分	完答に要する時間 (制限時間は60分)	少ない
一次合格に必要な正答率 (予想)			68%
標準			

**入試の特徴と対策**

- ▶ 設問ごとにテーマが一貫しており、目標に向かう流れがある。速やかなテーマの把握が鍵となる。
- ▶ 入試問題としてありふれた題材が多い。単純に演習量で十分に対策できる。
- ▶ 概ね法則の運用に関する応用的な出題である。物理計算への慣れが必要となる。

**入試から見る 大学が求める学生像**

他の医学部に比して制限時間が十分に与えられており、極めてシンプルな問題がほとんどである。試験会場でしっかりとわかるまで考え切る時間がある。急いで早とちりして大きなミスをしてしまうよりも、自分のペースで間違いのない答えを探すことを優先するような医学生を求めていると考えられる。